

に「嬉しいです」みたいにしか答えられなかつたと思いま

す。
——選考委員の方がすごく褒めでおられましたよね。

増島…最初はホントに19歳が書いたのか?って、49歳くらいの人が書いたんじゃないかなって言つておられた選考委員の方もおられたそうです。

——(賞を受賞されたことについて)周りの方の反応はいかがでしたか?

増島…ちよこちよこ同級生からLINEもらつたりして。

——この作品の内容について、ご両親は?

増島…まだ読んでないですね。応募を記念して、ご本人にインタビュー

——この小説をすばる新人賞に応募しようと思った理由はなんでしたか?

増島…1年生の9月から12月までです。

——この小説をすばる新人賞に応募しようと思った理由はなんでしたか?

増島…何かに応募しようとまず思つて、いくつか新人賞を調べたら、応募要項が「面白い小説であること」ってバンと書いてあつたので。じゃあここにしようと。

——もともとペンネームで応募されていたとおもうのですが、本名での公開・出版になつたのはなぜですか?

増島…本名が出るのは恥ずかしかつたのでは、何か「ペンネームをとった」と思つて付けました。「佐藤一郎」みたいな名前でははねられて、何かもう少しあと。

——もつと小さいころ、好きだった絵本で覚えているものはありますか?

増島…あまり絵本は読んだ記憶が無

終つて、家に帰つてからパソコンを使つて書いてます。

好きな本や作家の話について

増島…一番最初に活字を読んだのは、コナンドイルの『緋色の研究』です。そこから、小学校の間はホームズ、ルパン、二十面相、星新一さんなどを読んで、中一で筒井康隆さんの『家族八景』に出会つて、これで本格的に小説を読むようになりました。高校二年生の時に、大沢在昌さんの『新宿鮫』を読んで、小説家を目指そうと思いました。

——やはり、たまたま書いたから応募ではなくて、以前から小説家を目指していたんですね。

増島…記憶にはないんですけど、小学校の卒業アルバムを見たら、「将来の夢・小説家」って書いてました。昔から漠然とした憧れがあつたのかなあと。

——もつと小さいころ、好きだった絵本で覚えているものはありますか?

増島…あまり絵本は読んだ記憶が無



豊能町在住の大学生増島拓哉さんが著書『闇夜の底で踊れ』ですばる文学新人賞を受賞されました。これ

を記念して、ご本人にインタビュー

受賞が決まった時のことについて

——今回の文学賞受賞の通知があつた時はどうやって待つておられたのですか?

増島…(部屋で)爆音で音楽を聴いていました。沢田研二の『勝手にしやがれ』を歌いながら。あまり、(賞のことを)考えたくはなかつたので。

いざ電話に出ると緊張のあまり、「受賞しました」と言われるまでの瞬間がめちゃくちゃ長く感じられました。選考委員の方に受賞の喜びの声みたいなものを報告されるというので感想を聞かれたのですが、ふつう

執筆活動について

——執筆活動を始めた時期とかきっかけはどのようなものでしたか?

増島…高校の時に文藝部だったので、ちょっとしたものは書いていたんですけど、長編を書いたのは初めてです。書くのは授業



——執筆活動を始めた時期とかきっかけはどのようなものでしたか?

増島…高校の時に文藝部だったので、ちょっとしたものは書いていたんですけど、長編を書いたのは初めてです。書くのは授業

——文章を書かれるとき、常に何か考えてしたり、何かに書き留めていたりしますか?また、小説を書かれるのはどんな環境で書かれていますか?

増島…あまり絵本は読んだ記憶が無

くて、僕はここ（豊能町立図書館）で手塚治虫ばかり読んでました。一番最初に読んだのは、^{※3}『ワンダー3』でした。

影響を受けた本は、先ほど述べられた本ということになるのでしょうか？

増島…作家さんで言うと、筒井康隆さんや横溝正史さん、安部公房さんとか、大沢在昌さん、津原泰水さんです。

一本以外で、人間形成に影響を受けているものはありますか？

増島…映画は好きですね。

—どんなジャンルをご覧になりますか？

増島…まあ、浅く広く…。一番楽しめるのは、アクションものです。一番最初に観た大人っぽい映画は、^{※4}『ダーハード』でした。

—さきほど、ここ（豊能町立図書館）で手塚治虫を読んでいた話をされていましたが、図書館はよく利用されていましたか？

増島…手塚治虫はほぼここで全巻読めました。

—なぜ、35歳のパチンコ狂いを設定したのか、興味があります。

増島…^{※5}村上春樹の短編で、35歳になつて、割と社会的にも成功しているはずなんだけど、35歳つて人生の半ばくらいで、そこから新たなまったく別の人生は歩めないなつてことを悟つて、ちょっとだけ泣くみたいなのがあつて。その村上春樹の短編は



んでいました。図書館にある分は全部。エンタメとかの基盤は手塚治虫ですね。

今回の作品『闇夜の底で踊れ』について

—なぜこのテーマについて書こうと思われたのでしょうか？読まれて思われる本についてはミステリーが多く、ミステリーはお好きだと思うのですが、

増島…ミステリーは好きなんですが、読んだときにこんなロジックは無理だなど。後は単純に、浅く広く色々なジャンルに触れるなかで、ハードボイルドやノワールが一番面白いと感じたので。

—今回の小説を書くにあたって取材とかはどうされたんですか？

増島…取材とかはしてないです。

—自分の同年代が全く出てこない小説を書こうと思つたのはなぜでしょうか？たまたま？意識して？

増島…意識はしてないですが、全員にそれとなく自分の思想を入れたのです。（同年代を出さなくて）いいかなと。

—なぜ、35歳のパチンコ狂いを設定したのか、興味があります。

増島…^{※5}村上春樹の短編で、35歳になつて、割と社会的にも成功しているはずなんだけど、35歳つて人生の半ばくらいで、そこから新たなまったく別の人生は歩めないなつてことを悟つて、ちょっとだけ泣くみたいなのがあつて。その村上春樹の短編は

成功している人だつたんですが、じゃあ成功してない人でつて。

—そこからヒントに？

増島…同世代を入れようとかは思つてなかつたですね。

—出てくる登場人物は個性的な人が多いのですが、それだけが思ひ描いている人物なんかはいるんですけど？

増島…基本は無いんですが、パンチコ屋の常連の平田っていうのが出てくるんですけど、それだけは母方の祖父をわりと投影して書いてます。

増島…昨日思い出したんですが、^{※6}フーラワーカンパニーってバンドがあって、『真冬の盆踊り』って曲があるんですけど、それを夜中のラジオで流れてるのを聞いたときが、たぶん一番最初に書こうと思った瞬間です。

何かそれを聞いて最後のシーンだけ思い浮かんだんです。

—曲を聴いて、最終のところの情景が浮かんだ？

増島…いろいろ酷いことがあつた末に、その場面になるその絵が浮かんだ。じゃあ、書いてみようかと。ラストだけ何となく決まって、あとは何にも決まってなかつたです。

まあ、画期的なラストではないですけど（笑）

—どの世代に向けて読んでほしいとか、思い浮かべて書いてましたか？

増島…何も考えずに書きました。自分が面白いと思うものを書いて出し

—これからこの本が出版されますけど、読んでいたゞく人に對して、なにかこういうところを注目して読んでほしいとかありますか？

増島…楽しんでいたゞくのが一番かっこ時にふと読んでいたゞいて、楽しんでもらい、つかの間の休みになつていただければなと思います。

増島…楽しんでいたゞくのが一番かっこ時にふと読んでいたゞいて、楽しんでもらい、つかの間の休みになつていただければなと思います。

増島…楽しさとかありますか？

—これからこの本が出版されますけど、読んでいたゞく人に對して、なにかこういうところを注目して読んでほし

—これからこの本が出版されますけど、読んでいたゞく人に對して、なにかこういうところを注目して読んでほし

■増島拓哉（ますじま たくや）

1999年、大阪府豊能郡豊能町生まれ。

関西学院大学法学部在学中。

受賞作『闇夜の底で踊れ』は集英社より発売中。

（平成31年1月豊能町立図書館にて）



*1 応募時は「若利恒」のペンネームで応募、受賞後に本名に改名した。

*2 シャーロック・ホームズシリーズの最初の作品。1887年発表。ホームズとワトソンの出会いと、その後に起る殺人事件が描かれている。

*3 手塚治虫によるSF漫画。初出は1965年。年日本で公開。

*4 ブルース・ウィリス主演のアクション映画。1988年日本で公開。

*5 村上春樹の短編小説「ブールサイド」。短編集「回転馬のデッド・ヒート」に収録。

*6 愛知県出身の男性四人からなるロックバンド。「真冬の盆踊り」は5枚目のシングル。